

東京都作業療法士会ニュース

編集：東京都作業療法士会広報部 発行：会長 田中勇次郎

40年前の設立当時の出来事 ——感謝しています

東京都作業療法士会発足40周年おめでとうございます。

思い起こせば発足当時の士会長は青木清氏と思っておりましたが、私の記憶違いでした。

都士会の広報部部長からの指摘のように青木氏は東北関東支部の発足当時の長でした。

たまたま青木氏率いる東北関東支部の役員の一員であった私が、そのまま都士会の会長として引き継ぐことになりました。東北関東支部の事務局と私が勤務していた職場が近いこともあり、断り切れなかったと記憶しています（協会の組織編成に伴いブロックでの活動から各都道府県士会に編成）。当時は作業療法士の有資格者は少なく、組織も不十分で、選挙管理委員会も機能していなかったと思います（数年後から委員会機能し始める。元同僚には感謝しています）。

まず、前身会の規約を参考に規約を作ることから始まりました。

会の名称、事務局（所）、入会資格、目的、役員、会議、運営、会計等です。

名称：東京都作業療法士会

事務局：現在の東京都健康長寿医療センター（元養育院附属病院→東京都老人医療センター）から渋谷区福祉センターはあとびあ原宿（元渋谷区立身体障害者センター）に移る（仮屋生活）専属の事務局員もおらず（センターの方にはお世話になりました）。

役員：会長・副会長・会計・監事、会議：月1回、会計：年会費500円

発足当時の作業療法士が活躍していた職場：養成校3校（現在15校）、国立・都立・私立等 合計しても有資格者50名強でした。



東京都作業療法士会
初代会長 大西 麗子

日本リハビリテーション専門学校
ホームページより

会員名簿作成、会費の徴収、会員へのお知らせ（役員選挙も含め）等、現在と異なり手仕事・手作りでした。（会員名簿作成は手書き・入会者があると書き加えを）インターネットや携帯電話など無い時代、理事が本来の仕事の合間をぬって、各会員の職場に電話をしていました。本当に当時の理事の方に感謝です。会議の際の交通費は出ませんでしたね。

協会本部の役員のひとつが東京都士会員でした。会長を始め（歴代1～4代まで都士会に所属）事務局長（事務局員）、財務部長等。そのことにより未熟な私が士会長になることになりました。選挙管理委員会が設置されていても、次期士会長に立候補する会員がおらず、再三にわたり士会長にならざるをえませんでした（役員を選ぶ時、身障分野・精神分野・発達分野から）。

東京で学会が開催される際は当然、士会の協力は必要となり、重要な役を与えられることになりました。

子育てをしながら、臨床での仕事に加え、協会・士会の仕事は楽ではありませんでしたが、様々な人と出会いが自分自身を成長させてくれたと思っています。勉強にもなり、楽しいこともたくさんありました。

士会会員数50名強から2700名強に膨れあがった士会を盛り上げるために、現に活躍している会長はじめ理事、部員の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

作業療法を期待している利用者や子どもたちのためにも、さらなる質の向上のために努力を惜しまないで進んでください。

CONTENTS

- ◆40年前の設立当時の出来事——感謝しています…①
- ◆第18回東京都作業療法学会のご案内…②
- ◆東京都作業療法士会設立40周年にあたって…③
- ◆生涯教育制度について…④
- ◆子ども委員会活動報告…⑤
- ◆他職種へのOTの紹介、どうしていますか？…⑥
- ◆5年の歩み、そして次の一步を、認知症の人と家族のために…⑦
- ◆認知症にやさしい本の紹介 VOL.32…⑧
- ◆令和4年度診療報酬改定の概要…⑨

- ◆福祉用具部から「対面型研修 3/26→6/12に延期」のご案内…⑩
- ◆電動車椅子を利用した地域移動支援を多角的に捉える…⑪
- ◆就労支援委員会研修報告&オススメ書籍…⑫
- ◆東京都JRATについて…⑬
- ◆ブロック活動のお知らせ…⑭
- ◆事業部活動報告…⑮
- ◆編集後記…⑯

第18回東京都作業療法学会のご案内

Change Chance Challenge 3つのC

～作業療法のいま・これから～

大会長：三沢 幸史

(東京都作業療法士会副会長・多摩丘陵病院)

※第18回東京都作業療法学会の参加登録期間と登録方法、参加費が決定しました。また、学会企画も興味深い内容が目白押しです。ぜひご参加ください。

- ◆開催日：2022年7月10日（日）
- ◆方法：WEB（ZOOM）
- ◆参加登録期間：2022年5月2日（月）～6月26日（日）
- ◆参加登録フォーム：下記URL・QRコードよりお申込みください。
<https://onl.sc/pecP6vV>



◆参加費

- ①東京都作業療法士会会員 2000円
- ②東京都作業療法士会会員で2020年以降作業療法士免許取得者 無料
- ③東京都作業療法士会非会員で2020年以降作業療法士免許取得者 無料
- ④作業療法士養成校 学生（大学院生除く）無料
- ⑤その他 東京都作業療法士会非会員 3000円

※参加費について：新型コロナウイルス感染症の影響で、OTの資格を取って間もない方の学会参加に影響が出ている状況があること、東京都作業療法士会発足40周年ということから、今学会に限り免許取得後3年目までのOT（会員・非会員ともに）の参加費を無料と致しました。

◆学会企画について

- ・現在40周年記念企画を準備中です。詳細は決まり次第ホームページでご案内致します。
- ・学会企画の一つとして、学会テーマである「change chance challenge 3つのC 作業療法のいま・これから」に即した取り組みを紹介して下さる方を公募したところ、5つのお申し込みをいただきました。テーマとしては「発達」、「シーティング」、「住宅改修」、「脳卒中当事者と家族支援」、「認知症ケア」と幅広く、学会テーマに即した非常に興味深い企画になると期待しています。また、部と委員会の皆さまからも同様にテーマを募集しています。ぜひ、多くの皆さまにご参加いただき、各セッションと一緒に盛り上げていただきたいと思います。よろしくお願ひ致します。

お問い合わせ：第18回東京都作業療法学会 事務局 occupational.therapy.tokyo@gmail.com

東京都作業療法士会設立40周年にあたって

東京都作業療法士会 会長 田中 勇次郎

東京都作業療法士会（以下、都士会）は1982年の設立から今年で40年になります。この間、養成教育も短大、大学が加わり養成校数は全国で205校になり、作業療法士の数は2022年2月1日現在99,776名になりました。都士会員数は設立当初50名程度でしたが、現在約2,700名になっています。

都士会設立から30年までの歴史に関することは、2013年に発刊した学術誌東京作業療法の第1巻創刊号の私の巻頭言「学術誌創刊にあたって」と、歴代の会長が書かれた「歴代会長から見た東京都の作業療法」をお読み頂くとして、ここでは都士会の目的である、①会員の学術技能の研鑽と資質の向上、②作業療法士の社会的地位の向上、③作業療法の普及発展、④地域医療・福祉への貢献、これらについて振り返り、今思うことをお伝えします。

①については、研修会の開催、学会の開催、学術誌の発行などを会員の増加に伴い段階的に実施し充実させてきました。2014年に都士会を6ブロック化して、各ブロックがブロック内の会員に向けてMTDLP研修などを開催できるようにして会員の利便性を図りました。また、一昨年来のコロナ禍で研修会をリモート形式で実施できるようにしました。このことは、今まで研修会会場に足を運ぶことが環境的に困難な会員に受講機会を提供することに繋がりました。

②～④については、2007年の法人化が果たした役割が大きいです。現在、東京都福祉保健局が実施している東京都リハビリテーション協議会、医療従事者ネットワーク連絡会、介護予防推進会議、多職種連携連絡会（東京都医師会受託事業）などに委員として参加しています。また、東京都医師会や東京都歯科衛生士会の新年賀詞交換会に呼ばれたり、関連機関・団体の学会やイベントの後援依頼を受けたりするようになりました。また、区や市の介護予防事業も委託されるようになってきました。この介護予防事業対応と事務局業務の円滑化を考え、2018年に事務局長を専任にしました。

昨年の第19回看護フェスタ（WEB開催）では、参加した11団体の23あるコンテンツの中で、都士会の認知症の人と家族の生活支援委員会が制作した認知症関連書籍紹介動画が、東京都看護協会の挨拶動画に次いで2番目の閲覧数を得ました。また、参加団体Webサイト閲覧数も東京都臨床工学技士会に次いで2番に多い閲覧数になったことなどから、作業療法に関心を持たれていることを実感しました。

なお、関連機関・団体への認知度が高まるにつれて、政治的な面でも支援・協力の依頼が増えてきました。様々な政党からの支援要請は、2016年に発足した東京都作業療法士連盟に対応を一任しています。

今思うこと①については、時代に沿った内容と手段を考え発展させることです。②～④については、次の二つです。

一つ目は、2022年3月25日に開催された東京都リハビリテーション協議会の検討事項に挙げられた、東京都のリハビリテーション医療充実の中の一課題である復職支援強化のことで、都は課題に対するモデル的な取り組みを推奨していますので、都士会の就労支援委員会などが地域リハビリテーション支援センターと連携して活動することです。

二つ目は、東京都リハビリテーション専門職協会（以下、リハ専門職協会）の活用です。2021年8月26日に東京都理学療法士協会が東京新聞に「エスカレーター止まって乗りたい人がいる」という意見広告を掲載しました。都士会も賛同できることなので、今後はリハ専門職協会で実施することを提案しています。リハ専門職協会が特に②に有用な役割を果たす組織になるよう取り組むことです。

今後とも皆様のご支援・ご協力を、よろしくお願いいたします。

生涯教育制度について

東京都作業療法士会教育部 部長 菊池 大典

日本作業療法士協会では作業療法士の学術的研鑽を支援するために、生涯教育制度を設定しています。本制度は基礎研修制度、認定作業療法士制度、専門作業療法士制度に分けられ、本稿では新人作業療法士が最初に取り組むことになる、基礎研修制度について解説します。

基礎研修制度は「現職者研修」と「自由選択研修」から成ります。現職者研修はさらに、共通研修と選択研修に分けられ、具体的には「現職者共通研修」「現職者選択研修（身体障害領域、精神障害領域、老年期領域、発達障害領域、MTDLP）」として開催されます。また、2020年度から「臨床実習指導者講習会」が基礎研修終了後の初回更新時まで受講が必須となる更新必修研修として位置づけられております。臨床実習指導者講習会については、教育部での企画運営について計画中でございます。開催が決まりましたらホームページ等でご案内致します。

現職者共通研修は全10講座（各90分）で構成され、具体的な内訳は座学となる8講座と、発表とグループディスカッションの2講座となっています。事例報告の講座はクライアントからの同意と、その証左である同意書の提出が必須となっておりますので、詳細は募集時の要項をご確認下さい。全科目の受講により修了となり、基礎研修ポイント（20ポイント）が付与されます。

現職者選択研修は必修講座であるMTDLPに加え、任意の1講座（身体障害、精神障害、老年期障害、発達障害）を受講することで修了となります。会員が従事している領域の講座を受講する場合がありますが、他領域の知見や最新の動向を得る観点から、2講座以上の受講も期待しております。現職者選択研修は土曜日及び日曜日の開催で、各講座いずれも4科目（各90分）で構成されています。1講座を受講する度に、基礎研修ポイント（2ポイント）が付与されます。

現職者研修シリーズは東京都作業療法士会が日本作業療法士協会からの委託を受けて、開催する形式となります。受講における要件等については、日本作業療法士協会の規則に則って頂くことになります。

自由選択研修は東京都作業療法士会教育部の裁量によって、内容を自由に設定できる研修となっております。昨年度は身体障害領域に従事する作業療法士を対象に、臨床や職務上の悩みに関する研修会、発達障害領域における行動の分析に関する研修会、事例検討を通じた住宅整備の研修会を行いました。本研修も基礎ポイント（2ポイント）が付与されますが、選択研修とは異なり受講は任意となっております。しかしながら、自己研鑽や、50ポイントの蓄積の為に、積極的な受講をお願いします。

上記の研修は、いずれも東京都作業療法士会教育部が企画と運営を行っております。昨年度から引き続き新型コロナウイルス感染予防の観点から、Zoomを利用した遠隔形式での開催となります。研修会へのご参加を、お待ちしております。

子ども委員会活動報告

子ども委員会 委員長 山崎 仁智

コロナ禍での委員会の活動も2年が経過し、一年以上対面での委員会や活動を控えてきました。オンラインで委員会を開き毎月実施しています。委員会自体は慣れてきたものの、研修会は数回しか経験できていないため研修に参加された方には迷惑をかけていると思います。令和3年度の活動としてオンラインの研修は「子ども×福祉用具」のタイトルとして実施しました。委員のメンバーが実際の現場で使えるアイデアを共有して参加者とディスカッションをしました。学会では「覗いてみよう！発達OTのアタマ」を企画してオンラインで事例検討を行いました。委員会の中で企画を考え、委員会メンバーでアイデアを話している事が一番盛り上がっているかもしれません。コロナ禍では病院や施設・学校でも人数が制限される面も多く、2年間は外部専門家の見学研修が実施できませんでした。他の都道府県では実施されていない研修のため、今年度は実現していきたいと思います。

外部専門家の育成のための研修も必要ではありますが、作業療法士を目指す学生が減り、小児・発達領域を目指す作業療法士の割合も減少しています。現在小児・発達領域で活躍されている方への研修の必要性を感じていますが、作業療法士を目指し小児・発達分野を選ぶ人材を獲得するために子ども委員会含め作業療法士全体が考える大きな課題かと思えます。

今年度も都士学会や研修会、外部専門家見学研修会など企画をしていきたいと思しますので興味を持たれた方は研修会等のイベントに参加していただけたら幸いです。

他職種へのOTの紹介、どうしていますか？

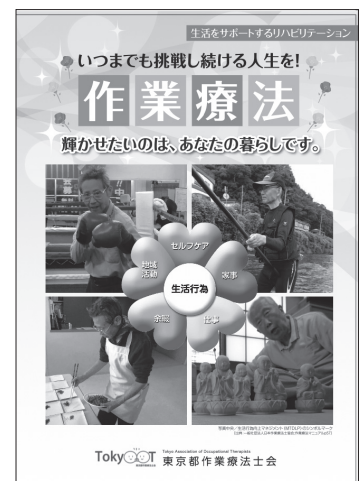
地域包括ケア対策委員会 副委員長
目黒区介護保険課介護予防係 春口 麻衣

新年度になりました。皆様の周りでも新しい風が吹いていることと思います。そんな新年度に、ぜひ紹介したいツールがあります。右に示しましたリーフレットを知っていますか？ご覧になったことがある方もいらっしゃると思います。これは、「OTを他職種に知ってもらいたい！紹介したい！」という目的で作成したものです。OTの役割や活動している場所などを事例も含めて掲載しております。支援をする中では、対象者への直接的な支援だけでなくその方の住まわれる地域の方々、さまざまなサービスに従事する職種との連携は必要不可欠です。私たちがOTとして何を支援できるのか、それを他職種にもわかりやすく伝えることはとても大切です。このリーフレットはそれをお手伝いできるツールとして、さまざまな場面で紹介され、好評を得ています。

みなさんもよろしければ、このリーフレットを用いてみませんか？多くの方、他職種の方にOT支援を知っていただき、OTとしてもどんどん活躍していきたいですね！

リーフレットは①部数（1度に最大200部）、②申込者名とご所属名、④送付先住所、⑤利用目的などを記入の上ご依頼ください。都士会事務局から配送していただけます。ご入り用の際は一方を入れていただきますよう、お願い申し上げます。

地域包括ケア対策委員会：chiikihoukatsu.tokyo@gmail.com



5年の歩み、そして次の一步を、 認知症の人と家族のために

認知症の人と家族の生活支援委員会
群馬パース大学リハビリテーション学部 竹原 敦

本委員会は、2016年にその準備委員会である「東京都市会 認知症対策委員会」から始まりました。「認知症の人に対して対策と言ってしまうと、認知症になることを否定することから思考が始まるので、この言葉は使いたくない」と言う当時の委員長の竹原の想いを受けて、翌2017年に「認知症の人と家族の生活支援委員会」と名称を変更しました。その後、2021年4月からは上村委員長が、2021年8月からは山下委員長が歴任しています。

この委員会は設立当初から、認知症の人と家族がよりよい生活を送るためには社会が認知症の人を理解して受け入れる体制を整えなくてはならないと考え、数年に渡り「都民向け認知症フォーラム 認知症リハビリ最前線」を開催しました。また、都民が認知症や、認知症に関連した作業療法の目線を理解できるよう委員会ブログを開設し委員皆で順番に書いています。

現時点では、世界中の研究論文において、認知症の人の認知機能改善の成果に関する根拠は、見出されていないことは既知のことです。しかし、認知症の人が「認知症になったからといって何もわからなくなったわけではない。やりたいことがたくさんある、できることも多い、そして、必要以上の賞賛は不要である。」と自らの言葉で伝えてくれることを受けて、作業療法士は、今まで以上に認知症の人が意欲的に役割を担って生活習慣を維持しながら満足する人生を歩むことを支援してゆくことに努力を払う必要があると思います。

認知症にやさしい本の紹介 VOL.32

川崎市立教育委員会 川崎市立宮前図書館 館長 舟田 彰

アートトリップ入門～認知症のうつ・イライラを改善！～

林容子/著者 誠文堂新光社/出版社

アートの世界から認知症とどう向き合うのか、本のタイトルを見て気になった。絵画を鑑賞し、認知症当事者の方、その家族、介護する方がその作品に触れ、その時、感じたことや過去の思い出など、誰もが自由に語り合い、誰からも否定されず、認められるプログラムである。そして、当事者やその家族が生き生きと充実した生活を送るための環境づくりが欧米の美術館を中心に行われている。アートトリップとはアート（芸術）トリップ（旅）＝「芸術の旅」。アートに触れ、非日常を感じることを旅に例えて作った造語であるようだ。この美術館の素晴らしい取り組みが図書館と同じ地域の教育機関によって行われているということを知らなかった。今回、認知症の有無に関わらず、絵画を通して、言葉を介しコミュニケーションを深め、誰もが意見共有する場を作っていくことに、とても感銘を受けた。そして、これも認知症ケアにつながるのかと読み進めて納得。この手法はエビデンスについても研究が進んでいるとの記載もあった。「静かにしなければならない場所」と言われている美術館。図書館の同様の既成概念がある。それを乗り越えて、ケアするプログラムが構築し、確立されつつある。とても図書館との親和性を感じ、本を通したケアプログラムがどうにかできないものかを考えるきっかけとなった。

令和4年度診療報酬改定の概要

保険部 担当理事 松岡 耕史

令和4年4月1日から診療報酬が改定されました。紙面の関係上、OTが関わる一部の情報になりますので詳細は以下の情報をご確認ください。「精神科」に関する情報は今後ご紹介致します。

「厚生労働省中央社会保険医療協議会」

： https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000188411_00037.html

1. 地域包括ケア病棟入院料の評価体系（在宅復帰率・自宅等から入棟した患者割合・緊急患者の受入れ数）の見直し
 - ・【在宅復帰率】：「入院料1・2、管理料1・2」は現行の7割以上から改定後は7割2分5厘以上に変更。
「入院料3・4、管理料3・4」は7割以上であることを要件に追加。
 - ・【自宅等から入棟した患者割合／緊急患者の受入れ数】
「入院料1・3、管理料1・3」：自宅等から入棟した患者割合は、現行の1割5分以上から2割以上に変更。
自宅等からの緊急の入院患者の3月の受け入れ人数は6人から9人以上に変更。
「入院料2・4、管理料2・4」：自宅等からの入院した患者割合の要件は以下のいずれか1つ以上を満たすことを追加。自宅等から入棟した患者割合2割以上／自宅等からの緊急患者受け入れが3月で9人以上／在宅医療等の実績を1つ以上
2. 回復期リハ病棟入院料に係る見直し
 - ・重症の患者割合の見直し（経過措置として、令和4年9月30日までの間は当該基準を満たすものみならず）回復期リハ病棟入院料1・2は現行の3割以上から4割以上、入院料3・4は現行の2割以上から3割以上に変更。
3. 回復期リハを要する状態の見直し
 - ・「急性心筋梗塞、狭心症発作その他急性発症した心大血管疾患又は手術後の状態」を追加し算定上限日数を90日以内とする。
4. 療養病棟入院基本料に係る経過措置の見直し（経過措置として、令和4年9月30日までFIMの測定を行っているときのみ）
 - ・疾患別リハ料を算定する患者に対し、FIMの測定を月に1回以上行っていない場合は、1日につき2単位までの出来高算定。
 - ・疾患別リハ料を算定する医療区分2の患者に対し、FIMの測定を行っていない場合は医療区分1に相当する点数を算定。
5. 疾患別リハ料の見直し
 - ・標準的算定日数を越えてリハを行う場合に、月に1回以上FIMを測定していることを要件化。

福祉用具部から「対面型研修 3/26→6/12に延期」のご案内

福祉用具部では、2017年度から「ADLシーン別研修『居室・寝室編』、『排泄編』、『入浴編』」と行っており、昨年10月にオンライン研修『居室～玄関・アプローチ編』として「住宅改修編」の研修を行いました。その後3月26日に対面研修を計画しておりましたが、残念ながら感染状況が悪化していたため、延期とさせて頂きました。

今回、感染対策に気をつけながら『居室～玄関・アプローチ』『対面型研修 福祉用具編』を行います。メーカーの方にも協力頂き福祉用具の実機に触れる研修内容になっています。

『居室～玄関・アプローチ 福祉用具編』

- ☆対象：作業療法士協会員かつ都道府県士会員 基礎ポイント2ポイント付与
その他（職種など問いませんが、定員を超えた場合には、会員を優先させていただきます）
- ☆参加費：作業療法士協会員かつ都道府県士会員：1,000円 その他：2,000円
- ☆定員：20名
- ☆開催日時：6月12日（日）10時30分～13時00分（受付開始10時15分）
注）感染状況が悪化している場合は、対面研修は中止しますが、ライブ配信を致します。
- ☆研修会場：東京YMCA医療福祉専門学校（国立市富士見台2-35-11）
- ☆申込方法：下記のQRコードもしくはURLよりお申込みください。
- ☆申し込み締切：2022年6月4日（土）

URL： <https://bit.ly/3dFCJQ4>



【問い合わせ先】

Mail： tokyo.ot.yougu@gmail.com
（*を@に変えて送信してください）

【連絡先】

パナソニック エイジフリー株式会社 船谷
TEL：090-5456-8401

電動車椅子を利用した地域移動支援を多角的に捉える

自動車運転と移動支援対策委員会 担当理事 楠本 直紀

年度末の2022年3月25日（金）に当委員会主催のweb研修を、ZOOMを利用して実施しました。今回の研修会では、地域での移動支援にフォーカスし、「地域での移動手段を考える研修会～電動車いす等を地域の移動手段として活用するには～」と題してシンポジウム形式で開催しました。発表者として、電動車椅子ユーザーである鳥越 勝さん、電動モビリティ総合カンパニーと称し電動車椅子等を広く扱われている株式会社セリオの山村さん、脳卒中者が電動車椅子の利用に至るプロセスを研究している台東区立台東病院の亀井OTの3者に登壇していただき、各々の立場で電動車椅子を利用した移動支援について話していただきました。鳥越さんの発表では、当事者として電動車椅子を利用するようになった経緯や利用することによる利点など、日常生活でのエピソードを交えながらユーモラスに語っていただき、支援する側のOTにとって非常に学び多きものでした。株式会社セリオの山村さんには、多種多様な電動モビリティの紹介や制度の話を中心にお話しいただき、業者こそその視点で発表していただきました。亀井OTの発表では、電動車椅子の利用に至るプロセスについて学術的に話ししていただき、クライアントの電動車椅子利用を促進するためにはどのような支援が有効か考えるきっかけになりました。ご参加いただいた皆様、どうもありがとうございました。当委員会では、2022年度も自動車運転支援や移動支援に関する研修会を開催する予定です。皆様のご参加お待ちしております。

就労支援委員会研修報告&オススメ書籍

就労支援委員会

ワークステーション Jade 扇 浩幸

2022年2月20日（日）に、第3回就労支援委員会主催研修会 精神障害者・発達障害者のための就労支援～当事者と共に考える～を開催いたしました。今回は、就労支援委員会としては初めて、精神・発達障害に焦点を当てた研修を実施しました。

今まで繋がれていなかった精神・発達領域で働く作業療法士さんたちと繋がれた貴重な機会でした。研修は、第1部では、大阪で先駆的に就労支援を行われている金川善衛さんから精神障害の就労支援について、私から発達障害の就労支援についてお話し、第2部では発達障害当事者として、石川洋行さんにご登壇いただき、就労支援を受けた経過をインタビュー形式でお話しました。参加者の方からは「短い時間でしたが必要な要素が凝縮されていたと思います」「当事者である石川さんの就労に至るまでのリアルな体験談は貴重な学びでした」など好評の声をいただきました。また、次回に向けてたくさんのご意見をいただけたので、今後の企画に活かしていきたいと思います。

【オススメ書籍】

精神・発達の研修を行なったので、発達障害の就労支援に関わる本のご紹介です。

對馬陽一郎著『ちょっとしたことでうまくいく 発達障害の人が会社の人間関係で困らないための本』

コミュニケーションの課題は、支援者もどのように対象者に伝えるか悩む、非常にセンシティブな問題です。この本は、そうしたコミュニケーションの課題に対し、具体的な対応を項目ごとに示してくれており、対象者と一緒に読む、該当部分だけ本人と共有するなど使い勝手の良い書籍です。ぜひご参照ください。



東京都JRATについて

都士会災害対策担当（東京都JRAT理事） 松岡 耕史

<東京都JRAT（災害リハビリテーション支援関連団体協議会）の発足>

災害発生時には、日本理学療法士協会や日本作業療法士協会、日本言語聴覚士協会、回復期リハビリテーション（リハ）病棟協会などリハ関連の13団体で構成されたJRATが状況に応じて必要なリハサービスを提供し、被災地域の自立支援活動を行う。都道府県単位において地域JRATが組織化されており、東京都においては2021年度に東京都JRATが発足された。

<東京都JRATの目的>

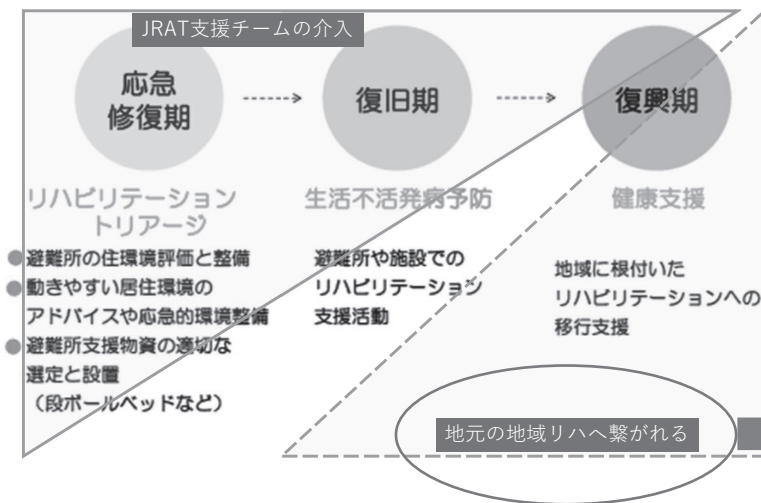
平時から参加団体が連携し、災害発生時には、被災した都民が自立生活を再建、復興を目指していけるように、リハ支援を受けられる制度や体制の確立を促進する。

また、他の道府県における災害発生時には、速やかに災害リハ支援チームを派遣する体制を平時から整える。

<東京都JRATの構成団体>

1. 東京都OT士会
2. 東京都PT協会
3. 東京都ST士会
4. 東京都介護支援専門員研究協議会
5. 東京都地域リハ支援センター

<災害のフェーズに合わせたリハ支援>



発災初期はJRAT支援チームの介入が大切だが、復興期には地元の地域リハへ繋げる必要がある。そのため、平時から地域リハ支援センターや各区市町村との連携が重要。

<東京都JRATの活動>

平時から災害リハ支援チームの育成・組織化を行い、都内の災害リハネットワークを構築する。災害発生時には、関連団体と連携を取り合い直接的な災害リハ支援を行っていく。被災時に援助を受ける「受援」体制作りと、被災地への「支援」のための災害リハ支援チーム（ボランティアとして被災地での活動）の登録・育成なども実施する。今後は市民も含めた災害リハに関する啓蒙活動の実施や、区市町村の避難所運営に関する防災訓練への参加も検討していく。

※都士会の災害対策や災害リハ支援チームに興味がある、関わってみたい方は下記アドレスへご連絡ください。

tokyootsaigaitaisaku@gmail.com（都士会災害対策担当：松岡）

ブロック活動のお知らせ

区東部東北部ブロック（墨田区、江戸川区、江東区、足立区、葛飾区、荒川区）

齋藤 正洋

令和4年度のブロック活動もまた始まりました。今年度から、区東部東北部ブロック長がいずみ記念病院の大瀧直人さんに変更となります。新しいブロック長となり、ブロック活動も心機一転、新しいことに取り組んでいただきます。ブロック活動は、日本の作業療法士の初めの第一歩、草の根的な活動です。この活動が作業療法士の全体を支える活動につながっています。まだブロックの活動に参加していない方々。ブロック会議に顔を出すだけでも、最新情報や刺激的な場、ホッとする一時があなたを待っています。都士会の全てのブロックは皆さんをお待ちしております。若くても、経験が無くても、休んでいる方でも構いません。是非、東京都作業療法士会の事務局にメールで連絡してください。令和3年度限りで、私はブロック長を辞めさせていただきます。8年間、活動を共にしてくれた委員の皆様、有難うございました。最後にこの場をお借りしまして、お礼を申し上げます。学会の活動や様々な研修活動、会議など、大変でしたが、楽しいことも沢山ありました。回を重ねるたびに連携が強くなることを実感しておりました。私は、これからも地域リハビリテーションの場で、作業療法の下支えをしていく所存です。今後とも、皆様、宜しくお願い致します。

区西北部ブロック（練馬区、板橋区、北区、豊島区）

藤原 光国（東京リハビリ訪問看護ステーション）

東京リハビリ訪問看護ステーション板橋に所属しております藤原と申します。私は社会人を経て、昨年作業療法士の資格を取得し、現在に至ります。学生時代にリハ助手として回復期病院で4年働きました。退院されてもすぐに入院される患者様を何人も見てきて、在宅の場ではどのように過ごされているのか。どういった問題を抱えながら暮らしているのか。リハビリ職の視点で経験を積みたいと考え、在宅でのリハビリや動作指導などを中心に日々仕事しています。私がブロック活動に参加しようと考えたきっかけは、コロナ禍での入職だった為、他で働くOTとの情報交換ができればと思い参加しました。ブロック活動を通じて、他分野で働くOTと知り合い自分の知見を広げていけるよう切磋琢磨していきたいと思っております。また、今年度のブロック活動では6月に「生涯教育制度研修会」7月に「MTDLP基礎研修会」を企画しています。随時ホームページで募集するので確認をお願いします。

区中央部・南部・島嶼部ブロック（港区、千代田区、文京区、台東区、中央区、品川区、大田区、島しょ部）

山本 司（東京医科歯科大学病院）

4月から在宅総合ケアセンター元浅草の澤潟さんから区中央・南部ブロックのブロック長を引継ぎました東京医科歯科大学病院の山本司と申します。今後も私なりにブロックを盛り上げていこうといろいろ案を練っているところです。臨床に役立つ知恵・知識・技術が得られる研修会を開催するとともに、多くの作業療法士が作業療法についての考えを深められるように、疑問や悩みを語り合えるような繋がりを作る機会を提供していきたいと思っております。私自身、ブロックの活動に参加するだけでも他の職場の方々と意見交換・情報交換ができ、たくさんの方のことを学べております。千代田区・中央区・文京区・台東区・品川区・港区・大田区・島しょでお勤めの皆様、ブロック活動に少しでもご興味のある方はご連絡いただければ幸いです。皆でOTを盛り上げていきましょう。

区西部・西南部ブロック（新宿区、中野区、杉並区、目黒区、渋谷区、世田谷区）

齊藤 洸太

新たに作業療法士になられた皆様、後輩が増えた皆様こんにちは。新たに作業療法士になられた皆様、これから充実の毎日が待っています。実習時に比べ、先輩から容赦なく申し送りが行われ、多くの方の人生に関わります。余談ですが、私は能力がなく、新人の頃は毎日の残業で23時まで調べものに明け暮れ、お盆を過ぎた時期に少し早く帰れるようになり、信号が赤の点滅が点灯に見えるようになり、もみじが見られる頃に暗くならないうちに退勤でき、その時はあまりの綺麗さに涙した記憶があります。皆様はそのようなことはなく新しい環境で頑張れると思いますが、自分は職場の先輩に恵まれたことと東京都作業療法士会や老人保健施設協会の方に、社会人としての過ごし方や目標にしたい先輩を見られたことが、人生の転機になったと思います。最初の5年間の日頃の頑張りが、その後の数十年の人生を変えることになります。せっかく高いお金払って都士会に入ったんですから、職場だけでなく私たちのようなブロック委員にざっくばらんにメールして悩みを送ってくださいね。都士会委員の奉仕の精神は素晴らしいです。

西部・西南部ブロックの方はこちらにどうぞ ⇒ seibu.seinanbu.ot@gmail.com

西多摩・南多摩ブロック（瑞穂町、福生市、羽村市、あきる野市、青梅市、日の出町、奥多摩町、桧原村、八王子市、日野市、多摩市、稲城市、町田市）

今泉 幸子

西多摩・南多摩ブロックでは、現在、第18回 東京都作業療法学会の準備を進めております。5/2より参加登録の受付を開始しますのでどうぞ奮ってお申し込みください！ 新年度が始まり、皆さんの職場も新人を迎えていることかと思えます。また、2・3年生は興味・関心の方向性を見つけたい時期になるかと思えます。今回は特別に、OT免許取得後3年目の方々は非会員も含めて参加費無料となっております。ぜひ、学会への参加へのお声掛けをお願いいたします。お申し込み方法など詳しくは、今月号ニュース内の学会ご案内ページをご覧ください。

☆学会へのお問い合わせはこちらまで ⇒ occupational.therapy.tokyo@gmail.com

☆ブロック活動へのご意見・ご要望・ご質問はこちらまで ⇒ swtamaot@gmail.com

北多摩ブロック（武蔵野市、三鷹市、調布市、狛江市、小金井市、府中市、清瀬市、東久留米市、西東京市、東村山市、小平市、国分寺市、国立市、立川市、昭島市、東大和市、武蔵村山市）

原田 祐輔

2022年度がスタートしました。北多摩ブロックでは昨年度に引き続き「近隣の作業療法士との交流」が図れるよう座談会（5回）と勉強会（2回）を予定しています。ご興味のある方はお気軽にご参加ください。また、新たな試みとして、ブロック委員がリレー方式に都士会ニュースを執筆させていただくことになりました。様々な視点から北多摩ブロックの魅力を伝えられるように取り組んでいきたいと思えます。座談会や勉強会において取り上げてもらいたいテーマがありましたら、下記にアクセスしてください。今年度もよろしく願い申し上げます。



事業部活動報告

事業部 部長 大館 哲詩

新年度となり、このニュースがお手元に届く頃には慌ただしさもひと段落した頃でしょうか。事業部の活動として、今回は2つご報告させていただきます。

1つ目は事業部主催研修です、3月13日にオンラインにて開催いたしました。当会の紙田理事に講師をお引き受けいただき、「今すぐやってみたくなるコーチングスキル」のお題目で講義およびグループワークを実施しました。臨床場面だけでなく、後輩同僚とのやりとりなどでも活かせる、まさに「今すぐやってみたくなる」内容で参加者の事後アンケートでも好評いただきました。事業部主催研修では、主に会員の皆様の福利厚生につながるようなテーマを今後も取り上げていきたいと考えています。次回企画の際にはぜひご参加を検討ください！

2つ目に看護フェスタ2022です。昨年度は12月に専用ホームページを開設し、動画などが閲覧できる形での運営でしたが今年度は例年同様の5月開催となりました。ただ、感染状況を鑑み5月13日にLive配信という形での実施となりました。都士会としては前回大変好評だった、認知症の人と家族の生活支援委員会に作成いただいた認知症に関する本の紹介動画を一部編集して流してもらいました。オンライン開催で3年、次年度は現地開催できるとよいなと心より願うばかりです。

今年度も事業部の活動が少しでも作業療法の啓発につながるよう頑張っていきたいと思います。

編集後記

都士会設立40周年イヤーですね。今年度はこの40年間、都士会運営にご尽力された方々に巻頭言をお願いしていきます。大西麓子先生、ありがとうございます。新入職の皆さん、職場にはそろそろ慣れましたか。優しい先輩や気の置けない同期など、ご自身がほっと安心できる人やものや環境を一つでも多く見つけることは心の健康維持に重要だと思います。患者さん、利用者さんに寄り添える優しさや、強みをいかせるユニークさを持った作業療法士になっていって下さい。今年度も広報部をよろしくお祈りします。

広報部部長 水口寛子

※ニュースに掲載されている写真は、ご本人の同意を得たうえで掲載しています。

◆東京都作業療法士会 事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-4-1 新宿Qフラットビル501号室

TEL : 03-6380-4681 FAX : 03-6380-4684

◆東京都作業療法士会ホームページ <http://tokyo-ot.com/>

◆東京都作業療法士会ホームページ窓口 postmaster@tokyo-ot.com

※お詫びとお願い：現在事務局での電話対応が困難な状況にあります。

ご質問・ご連絡は、FAX・メールにてお願いいたします。